

## 2025 大阪・関西万博推進特別委員会

昨日 9 日、大阪市役所に資料収集に出かけたとき、表題の委員会開催を知った。揺れ動く夢洲での万博についての議論に注目したので、予定を変更して傍聴した。委員会室でのリアル傍聴は、コロナ禍の影響もあり、なんだか久しぶりだ。

理事者からの説明のあと、維新と公明の委員が万博の機運醸成などについて、長々と質疑を行った。このなかで夢洲が位置する此花区長も、区役所における万博に向けての機運醸成の方策について答弁した。つい、もし維新が推進した大阪市廃止・特別区設置が実現していたら、万博はどうなっていたか考えた。まったく大阪市や「24 区」廃止の反省もなく、万博の機運醸成を叫ぶ維新・公明委員の姿に腹が立ってきた。

もっと腹が立ったのは、国家事業である万博をチェックする立場にある大阪市議会の委員会が、万博推進の旗を掲げて「ヨイショ」する姿である。そもそも「万博推進特別委員会」だから、仕方がないとは言っても、どのようなスタンスで大阪市議員が万博に臨むかが問われているのではないか。万博推進局の課長らが答弁していたが、本来なら博覧会事務局の職員が同席して、質問に直接答えるのが筋ではないだろうか。

特別委員会室は特別に寒かった。休憩後には、傍聴者控室でモニター視聴することに。長時間にわたるので、途中までの傍聴になったが、少しだけ「収穫」もあった。それは万博開催時の重要なアクセス、淀川左岸線 2 期工事の大幅な遅れ、シャトルバスの運行に伴う問題である。

4 日にレポートしたが、1 日開催の大規模事業リスク管理会議で、軟弱地盤への対応などにより完成は最大 8 年遅れ、工事費はさらに 1000 億円も膨らむことが明らかにされた。

写真はリスク管理会議の資料、万博開催時の整備形態(委員会で配布されたようだが、傍聴者は無視)。これを見ると、かなりの高低差があり、安全にシャトルバスが運行できるのか疑問が出された。

万博のための暫定整備の追加費用も、大阪市にとって地元負担膨張になりかねない。

委員会退出後に質疑があったかもしれないが、万博機運醸成などより、夢洲での万博開催リスクに目を向けるべきではないか。会場予定地の土壤汚染は深刻なものがあり、安心・安全な万博が開催できるのか。大阪市議会としての役割と責任を問いたい。

(2022 年 9 月 10 日)

